



## 跡坂

跡坂あとさかという名の由来は、一説に「普門寺の後にある坂だから」といわれています。文禄3年(1594)の富田村検地帳に、すでに「あと坂」の地名がみえ、延宝年間(1673~80)の地図には、周辺が「跡坂町」と記されています。



江戸前期の富田『高槻市史』より

坂の途中には、富田の景勝を詠んだ「富田十勝詩とんだじっしょうし」などが知られる近代の漢詩人・坂田十松さかたじっしょうの生家があります。跡坂を登り切った先は、西隣の総持寺村(現茨木市)へ向かう「総持寺道」へと続いていました。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

### 跡坂

跡坂(あとさか)という名の由来は、一説に「普門寺の後にある坂だから」といわれています。

文禄3年(1594)の富田村検地帳に、すでに「あと坂」の地名がみえ、延宝年間(1673~80)の地図には、周辺が「跡坂町」と記されています。

坂の途中には、富田の景勝を詠んだ「富田十勝詩(とんだじっしょうし)」などが知られる近代の漢詩人・坂田十松の生家があります。

跡坂を登り切った先は、西隣の総持寺村(現在茨木)へ向かう「総持寺道」へと続いています。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

#### 跡坂

代々庄屋を務めた坂田家住宅(右の建物)の前の坂です。住宅は、地元が生んだ漢詩人、坂田十松の生家です。

当時、主屋の出入口が3か所あり、武士役人らの専用口、商人などの出入口、年貢収納者や家族の通路と分かれたようです。

